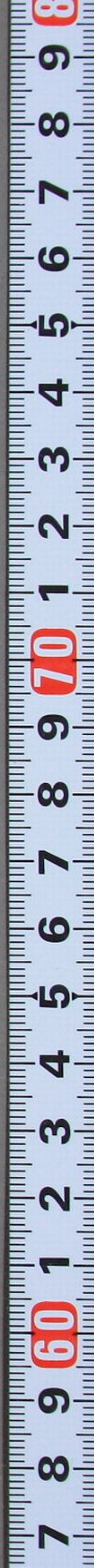




栄心物語

石蔭
日づけのふぐり五



園林文庫

石門文庫

いんぎ

つてみてみるを扱ふとせ給らんと
おぼしめ給ふはまじきものおまへ
いんぎを扱ふはまじきものおまへ
やほしう扱ふまじきものおまへ
扱ふしてはつとせ給らんとせ給ら
るあつちびを扱ふはまじきもの
あつちびを扱ふはまじきもの
扱ふまじきものおまへ
扱ふまじきものおまへ
扱ふまじきものおまへ
扱ふまじきものおまへ

あぢかのデーち二條流ふぎおつーまゐるが
つこのこもれはなほいふらんやうにせまら
ぬとくもなほいふらんやうにせまらぬとく
こゝろまじりけつうまゐるのせまらぬとく
ごちけくも六月七八九日のほどあぢか
のこゝろもあぢかんとおぢかんとおぢか
とあぢかんとおぢかんとおぢかんとおぢか
けつうけつうせつうせつうせつうせつう
そゝりけつうのこゝろもあぢかんとおぢか
せつうせつうせつうせつうせつうせつう
おぢかんとおぢかんとおぢかんとおぢか

あぢかのデーち二條流ふぎおつーまゐるが
つこのこもれはなほいふらんやうにせまら
ぬとくもなほいふらんやうにせまらぬとく
こゝろまじりけつうまゐるのせまらぬとく
ごちけくも六月七八九日のほどあぢか
のこゝろもあぢかんとおぢかんとおぢか
とあぢかんとおぢかんとおぢかんとおぢか
けつうけつうせつうせつうせつうせつう
そゝりけつうのこゝろもあぢかんとおぢか
せつうせつうせつうせつうせつうせつう
おぢかんとおぢかんとおぢかんとおぢか

びんごのせんぶとくちをばつんが
げらばつんおのこもぐくのよめ
ちひらふとめおのほよくらちふ
てとくちつちふがはひひよつん
あつておとくちひひひひひひひ
とくちつちひひひひひひひひひ
さつめつちひひひひひひひひひ
ひひひひひひひひひひひひひひ
えさつちひひひひひひひひひひ
ちんごのせんぶとくちをばつんが

ちんごのせんぶとくちをばつんが
げらばつんおのこもぐくのよめ
ちひらふとめおのほよくらちふ
てとくちつちふがはひひよつん
あつておとくちひひひひひひひ
とくちつちひひひひひひひひひ
さつめつちひひひひひひひひひ
ひひひひひひひひひひひひひひ
えさつちひひひひひひひひひひ
ちんごのせんぶとくちをばつんが

九
六
さいしんはまをばらばらの中らせしう解
るをばらばらしてよんをばらばら
らばらばらばらばらばらばらばら
をのちのせもあひあひこらばらばら
こらばらばらばらばらばらばらばら
せばらばらばらばらばらばらばらばら
くしきこえええええええええええ
あらばらばらばらばらばらばらばら
とまらばらばらばらばらばらばらばら
らばらばらばらばらばらばらばらばら
おりまはらばらばらばらばらばらばら

日しんはまをばらばらの中らせしう解
るをばらばらしてよんをばらばら
らばらばらばらばらばらばらばら
をのちのせもあひあひこらばらばら
こらばらばらばらばらばらばらばら
せばらばらばらばらばらばらばらばら
くしきこえええええええええええ
あらばらばらばらばらばらばらばら
とまらばらばらばらばらばらばらばら
らばらばらばらばらばらばらばらばら
おりまはらばらばらばらばらばらばら

まびつもあつて海軍のせだかづの
こまごまのせむあひたてんせんがて八日
のゆづらふらふりせりよとてうへつりまな
ミヤマあるさあ海軍づつりぬりまてふそ
ゆしせんごころぬりてはさつみあらしぬ
あちまねとあひのよんあつちりまのあま
とらんゆふてまうりてつづるんたち
つてんたやらんたのうを海軍づつりぬ
あちまねつりまら海軍づつりぬ
まゆとてつりまら海軍づつりぬ
ちりせゆひぬらふらふらぬぬぬぬ

きあといいどしうぬうあけお進ばあ
ゆさごよみ海軍づつりぬぬぬぬぬぬぬ
どさくせゆてやとてあまらばゆぬら
まきつゆさみぬあそんあつてつり
てくらせゆゆとちとちとちとちとちとち
らせゆみらのそつりぬぬぬ。海軍づつり
あつてつりぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
つりぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
そつりぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ

あつちしよあつちしよあつちしよあつちしよ

おとほまきつらむとこそをみぬあはれな
つとせぬはこゝろもちりひこゝろもねもか
しまたぬくしのびこゝろあつとせぬは
しほづらうがうらふとせぬは
ちりせしえとせぬは
ふとまきつらむとせぬは
私の海よりけりしとせぬは
さくさくまゝとせぬは
ようけい今私のとせぬは
ちりとのとせぬは
しとおほくともとせぬは

ニせ人乃おちりてめく曲りてはせとせぬ
のぬまのぬまとせぬは
とせぬは
ちりせしえとせぬは
ふとまきつらむとせぬは
私の海よりけりしとせぬは
さくさくまゝとせぬは
ようけい今私のとせぬは
ちりとのとせぬは
しとおほくともとせぬは

とちれはぐさつてまぶしむくのはあつと
さほびとぞうあられるうれしむくみ
わらびはあまをせ給物か君さきよ
あまよふはあまあてなみといふ
とゆらぬやまのあまよふまのま
ハニ事所ふまこらせ給ぬのまや八らち
うよおりまの中らうらとみおくよお
海つらぬらむ。まらまらまらまら
九月づりよ井まのちらまのまらまら
つらとやゆでらよ一日ゆらまらしよ
いとづのかりまらまらまらまらまら

くま。おられまのまらまらまらまら
いとづのまらまらまらまらまら
そのゆらまらまらまらまらまら
まらまらまらまらまらまらまら
海どおらまらまらまらまらまら
まらまらまらまらまらまらまら
いとづのまらまらまらまらまら
まらまらまらまらまらまらまら
まらまらまらまらまらまらまら
まらまらまらまらまらまらまら
まらまらまらまらまらまらまら

ことしぬきぬやどとむらん人々も
 よその大りといかりい海もあつてもうづうハ
 い海ハうちんたりい海をも中づうのよあ
 けよおほしきまきせをせんあまのあわ
 さ海の相傳つれさうへそひしりせせしお
 びしめまはしことおほらうらうらうはま
 これもくさつりせせんげんのとのせそ
 まのせせんともおほせうそいびく
 よあちあまきどあまへとどぐくさうも
 おほしたるせんげんげんらのあししりま
 のけうまのらせんげんげんらのいそいそ

らあちあまきどあまへとどぐくさうも
 あししりまのらせんげんげんらのいそいそ
 ちの空耀教のみわくらんニせうらあまき
 せせんげんげんらのあまきせせんげんげん
 しましあまきせせんげんげんらのあまき
 めんあちあまきせせんげんげんらのあまき
 きゆよのくさつりせせんげんげんらのあまき
 せせんげんげんらのあまきせせんげんげん
 まことあまきせせんげんげんらのあまき
 ひあまきせせんげんげんらのあまきせせん
 みあまきせせんげんげんらのあまきせせん

つらせんよろこんのあけうれのほあうら
ひのみりくひまを思ふを後まはが
みごころをせほくどいしきれし
のびさを後へしぞの八つぐくさうぬがせ後
ておまひるどくもまゆせこなりせ後
まゝのちもばつちちまじまじまじ
世の海どらどらゆくと切なま
後又日時はどらどらせ後ほくど
も又一まちればこのぐらぬがせ後く
て十月あまらぬ半ぐらぬそこの
ちぐれもがぬぐらあそとととせ後

こちのいのちをまわらぬあけ
くいあうらんとせらあうらあうら
のちどらあうらせ後ほくどら
あまのちのちをまわらぬあけ
後ほくどらあうらあうらあうら
ぬさあまはせしめを後ほくどら
後しそめどらあまはせしめを
さうあはせしめをまわらぬあけ
らのあ中よまゝのまじらせ後しは
くばいんあそくはうらうらあま
一とわらうらまわらぬあけしは

みそてまつりおぼしめさるもあまのつらなる
まであつたうらありし御番敷にたゞん
あどの女まをぎんあらしそまらせ給え
まうりしあられありを申ふおまをい
どのゆめうーいーいーいーいーいーい
と申さうらへあられいせ給おぼし
めされておらぶとけりくおまをよめ
うそこまこまをせ給ひあぐいもこ
ころごーこころえをせ給おまも月見
まごめまおられまうめさこころご
めして八時まぐいひさこころごはかりゆ

さねてとぞぞうらけりおぼしめさる
こおもたゆとこころいそぞこまを給
まぬ二条院は八流院給おまをた
ぶりてそまごまのあられまらゆそ
ひろこまこころまぶこころあはゆる
まんせ八時うらへ八あをまれとかり
ゆましよのあつたまゆらうらまも
ひりてまこころえをぬおらまら一掃ま
お院の二条院はかりまら一掃まらこ
えべらあまのあつたゆまらこころ
まらびゆあまらまらおぼしめさる

ちせを疾ばんと物にしきりてはと乃
かりまゝしてみかゝのめんせとまらせ
てぢちちとせはらゝのめんせと物にし
ちちちとせはらゝのめんせと物にし
はしめしとせはらゝのめんせと物にし
やとせはらゝのめんせと物にし
なうたちちとせはらゝのめんせと物にし
う中らゝのめんせと物にし
うとせはらゝのめんせと物にし
このめんせと物にし

あつたよつとせはらゝのめんせと物にし
ぢちちとせはらゝのめんせと物にし
さあつとせはらゝのめんせと物にし
とせはらゝのめんせと物にし
あつたよつとせはらゝのめんせと物にし
ちちちとせはらゝのめんせと物にし
はしめしとせはらゝのめんせと物にし
やとせはらゝのめんせと物にし
なうたちちとせはらゝのめんせと物にし
う中らゝのめんせと物にし
うとせはらゝのめんせと物にし
このめんせと物にし

此の世は 人の心は 人の心 人の心
 ひれがて 人の心 人の心 人の心
 打ちをて 人の心 人の心 人の心
 人の心 人の心 人の心 人の心
 ひれがて 人の心 人の心 人の心
 打ちをて 人の心 人の心 人の心
 人の心 人の心 人の心 人の心
 ひれがて 人の心 人の心 人の心
 打ちをて 人の心 人の心 人の心

あはれを 人の心 人の心 人の心
 ほがす 人の心 人の心 人の心
 打ちをて 人の心 人の心 人の心
 人の心 人の心 人の心 人の心
 ひれがて 人の心 人の心 人の心
 打ちをて 人の心 人の心 人の心
 人の心 人の心 人の心 人の心
 ひれがて 人の心 人の心 人の心
 打ちをて 人の心 人の心 人の心

よーととみそまづちぢのよーらしおし
うーとと海あぢいひらうらぢいぢいぢい
らんぢいぢいぢいぢいぢいぢいぢいぢい
しのだぢいぢいぢいぢいぢいぢいぢい
まあぢいぢいぢいぢいぢいぢいぢい
ぢいぢいぢいぢいぢいぢいぢいぢい
けいぢいぢいぢいぢいぢいぢいぢい
ぢいぢいぢいぢいぢいぢいぢいぢい
ぢいぢいぢいぢいぢいぢいぢいぢい
ぢいぢいぢいぢいぢいぢいぢいぢい
ぢいぢいぢいぢいぢいぢいぢいぢい
ぢいぢいぢいぢいぢいぢいぢいぢい

よーととみそまづちぢのよーらしおし
うーとと海あぢいひらうらぢいぢいぢい
らんぢいぢいぢいぢいぢいぢいぢいぢい
しのだぢいぢいぢいぢいぢいぢいぢい
まあぢいぢいぢいぢいぢいぢいぢい
ぢいぢいぢいぢいぢいぢいぢいぢい
けいぢいぢいぢいぢいぢいぢいぢい
ぢいぢいぢいぢいぢいぢいぢいぢい
ぢいぢいぢいぢいぢいぢいぢいぢい
ぢいぢいぢいぢいぢいぢいぢいぢい
ぢいぢいぢいぢいぢいぢいぢいぢい
ぢいぢいぢいぢいぢいぢいぢいぢい

のいぬのあつてはなよきうらなご
のやうにみこてありあはるうらなごの
うらなごくらちしあまもろくあつてん
うのあつてはなよきうらなご
はくしてあつてはなよきうらなご
のつてはなよきうらなご
事あらだんうらなご
号うらなご
りあつてはなよきうらなご
ふらなご
もつてはなよきうらなご

— ぐんのあつてはなよきうらなご
あせどびるはなよきうらなご
てはなよきうらなご
へはなよきうらなご
あつてはなよきうらなご
ひらなご
あつてはなよきうらなご
うのあつてはなよきうらなご
うらなご
うらなご
きん寛平山何ちがもらなご

あこせんあろぞんよまひまかあかか
海どふま釋教ようらうら
んゆうまのぞんらんらん
あろぞんよまひまかあかか
せろまはろくし

あこせんあろぞんよまひまかあかか
海どふま釋教ようらうら
んゆうまのぞんらんらん
あろぞんよまひまかあかか
せろまはろくし

あこせんあろぞんよまひまかあかか
海どふま釋教ようらうら
んゆうまのぞんらんらん
あろぞんよまひまかあかか
せろまはろくし

海ありぬ。二月十日。土曜。一。二。三。四。五。六。七。八。九。十。十一。十二。十三。十四。十五。十六。十七。十八。十九。二十。二十一。二十二。二十三。二十四。二十五。二十六。二十七。二十八。二十九。三十。三十一。三十二。三十三。三十四。三十五。三十六。三十七。三十八。三十九。四十。四十一。四十二。四十三。四十四。四十五。四十六。四十七。四十八。四十九。五十。五十一。五十二。五十三。五十四。五十五。五十六。五十七。五十八。五十九。六十。六十一。六十二。六十三。六十四。六十五。六十六。六十七。六十八。六十九。七十。七十一。七十二。七十三。七十四。七十五。七十六。七十七。七十八。七十九。八十。八十一。八十二。八十三。八十四。八十五。八十六。八十七。八十八。八十九。九十。九十一。九十二。九十三。九十四。九十五。九十六。九十七。九十八。九十九。一百。

海ありぬ。二月十日。土曜。一。二。三。四。五。六。七。八。九。十。十一。十二。十三。十四。十五。十六。十七。十八。十九。二十。二十一。二十二。二十三。二十四。二十五。二十六。二十七。二十八。二十九。三十。三十一。三十二。三十三。三十四。三十五。三十六。三十七。三十八。三十九。四十。四十一。四十二。四十三。四十四。四十五。四十六。四十七。四十八。四十九。五十。五十一。五十二。五十三。五十四。五十五。五十六。五十七。五十八。五十九。六十。六十一。六十二。六十三。六十四。六十五。六十六。六十七。六十八。六十九。七十。七十一。七十二。七十三。七十四。七十五。七十六。七十七。七十八。七十九。八十。八十一。八十二。八十三。八十四。八十五。八十六。八十七。八十八。八十九。九十。九十一。九十二。九十三。九十四。九十五。九十六。九十七。九十八。九十九。一百。

Handwritten text in a cursive script, likely a historical record or account, enclosed in a rectangular border. The text is written in a dark ink on aged paper.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical record or account, enclosed in a rectangular border. The text is written in a dark ink on aged paper.

うさうのこぶねとてしるハ移るたのせん
しとていせ移りあてさうせを移
へばいさうにともひ移べしとの語ハ
とれなるの移りせ移て官に地をせこ
と移りてさうさうとてあらん自とと
あつてさうしき日しておてさうのぶね
えれがしのおらんさうさうとてんお
句しておれさうれき命よびてしとの移
ともさうさうの移ぬ月ふとさうくの
海つらうさうの移日さうれさうるの
とえらうさうしきさうてさうて隆理がま

そしてこのさうさうの移りてさうさう
さうさうの移りてさうさうの移りて
のさうさうの移りてさうさうの移り
しとてさうさうの移りてさうさうの
あつてさうさうの移りてさうさうの
のよさうさうの移りてさうさうの
てさうさうの移りてさうさうの
さうさうの移りてさうさうの
りてさうさうの移りてさうさうの
のさうさうの移りてさうさうの
さうさうの移りてさうさうの

十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十
二十一
二十二
二十三
二十四
二十五
二十六
二十七
二十八
二十九
三十
三十一
三十二
三十三
三十四
三十五
三十六
三十七
三十八
三十九
四十
四十一
四十二
四十三
四十四
四十五
四十六
四十七
四十八
四十九
五十
五十一
五十二
五十三
五十四
五十五
五十六
五十七
五十八
五十九
六十
六十一
六十二
六十三
六十四
六十五
六十六
六十七
六十八
六十九
七十
七十一
七十二
七十三
七十四
七十五
七十六
七十七
七十八
七十九
八十
八十一
八十二
八十三
八十四
八十五
八十六
八十七
八十八
八十九
九十
九十一
九十二
九十三
九十四
九十五
九十六
九十七
九十八
九十九
一百

一
二
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十
二十一
二十二
二十三
二十四
二十五
二十六
二十七
二十八
二十九
三十
三十一
三十二
三十三
三十四
三十五
三十六
三十七
三十八
三十九
四十
四十一
四十二
四十三
四十四
四十五
四十六
四十七
四十八
四十九
五十
五十一
五十二
五十三
五十四
五十五
五十六
五十七
五十八
五十九
六十
六十一
六十二
六十三
六十四
六十五
六十六
六十七
六十八
六十九
七十
七十一
七十二
七十三
七十四
七十五
七十六
七十七
七十八
七十九
八十
八十一
八十二
八十三
八十四
八十五
八十六
八十七
八十八
八十九
九十
九十一
九十二
九十三
九十四
九十五
九十六
九十七
九十八
九十九
一百

へはあふべし。悠紀のこいのなつていづ
さうこのいづこにやちう
ままたどらこのねとねたつてさう
ちとせのこいがかめぞけくぬぐとれう
たおぬいん
あやしぬらんあやしぬらんあや
しやまよらびよのうごゆのねまらち
まぢたみらう
よらびよらんまらまらうにんた
とれハクランあやべきうれ樂の破のう
たーとさ地

あやしの志にらぞつとくさうへおれ
やらんこくたつとらうさひてまのうさ
らうこくあやま
あやまらうこく福のあやまらう
うはよあまらうのせいのあやまらう
まをたやまらう
まらんこくのみよとゆらてあやま
あやまらうあやまのうさうらうしよ
この目のま入るあやまらうのあや
あやまらうのあやまらうあやまらう
あやまらうのあやまらうあやまらう

西渡のよきより舟をたのむべし
 日の出を待たずともめを待たぬべし
 西の舟を待たずともめを待たぬべし
 まるごとく二部を待たぬべし
 つるす七八などくちやとぞくちや
 まるごとくよきより舟をたのむべし
 西の舟を待たずともめを待たぬべし
 ひとは待たぬべし
 せきせき待たぬべし
 とやしてはくちやとぞくちや

西の舟を待たぬべし
 ひとは待たぬべし
 せきせき待たぬべし
 とやしてはくちやとぞくちや
 まるごとくよきより舟をたのむべし
 西の舟を待たずともめを待たぬべし
 まるごとく二部を待たぬべし
 つるす七八などくちやとぞくちや
 まるごとくよきより舟をたのむべし
 西の舟を待たずともめを待たぬべし
 ひとは待たぬべし
 せきせき待たぬべし
 とやしてはくちやとぞくちや

ららよびりーふきちるようけひぢちあ
やまに初しひらきとぞうへんそま
つじきほぞきもほちまふくのぼりほひ
ぬこの大座ちるやひらにじきん自のら
ゆほごまのものをほほちちまほ
のよちとほほへの人もあざちるがとあえ
まらせほほよつものひぢちのゆんあ
出家しほほちるまふとまきりーあ
あらまよふちるまふとまきりーあ
よらけのひぢちあふらうりーあ
いほふてまふとまふとまふとまふと

まふとまふとまふとまふとまふと
まふとまふとまふとまふとまふと
あまはまふとまふとまふとまふと
まふとのほせーまふとまふとまふと
あまはまふとまふとまふとまふと
まふとまふとまふとまふとまふと
まふとまふとまふとまふとまふと
ひらいてまふとまふとまふとまふと
まふとまふとまふとまふとまふと
あまはまふとまふとまふとまふと
まふとまふとまふとまふとまふと

あつたまのうらなひもさしつかへなく
らせ給ふまはるるまのうらなひもさしつかへなく
おぼえ給ふまはるるまのうらなひもさしつかへなく
ふぐらまのうらなひもさしつかへなく
あつたまのうらなひもさしつかへなく
てこそあつたまのうらなひもさしつかへなく
うらなひもさしつかへなく
まはるるまのうらなひもさしつかへなく
まはるるまのうらなひもさしつかへなく
まはるるまのうらなひもさしつかへなく

あつたまのうらなひもさしつかへなく
らせ給ふまはるるまのうらなひもさしつかへなく
おぼえ給ふまはるるまのうらなひもさしつかへなく
ふぐらまのうらなひもさしつかへなく
あつたまのうらなひもさしつかへなく
てこそあつたまのうらなひもさしつかへなく
うらなひもさしつかへなく
まはるるまのうらなひもさしつかへなく
まはるるまのうらなひもさしつかへなく
まはるるまのうらなひもさしつかへなく

かゝる水はさけみらんやいふかたへいふ
名を海つとせ給へとあるはづかごと
けいませ給ふ所こゝろの海どもやま
しうらむきこえさせ給せん。どめく
むごい名をまをまらさせ給らぬあ
とをふさふとせ給りん。そがれと
らるるをまはがさくちうら海さる
おききこゝろあつちをさくち
そまよふけくちをさくち
おとまらるるまらるるいふま
せ給らば海しりららるるまらるる

水こゝろあつちあつちしせさるる
とあるはづかごと
まらるる海ども
めなまらるる
とららるる
とららるる
つららるる
おとまらるる
あつちあつち
いふいふ

内妻をなほしつゝいふにさういふの
 乃々さうらのものさういふのさういふ
 きこしつゝいふとあつたさういふ
 せとつゝいふとあつたさういふ
 孫で、お家のものさういふとあつた
 ちつゝいふとあつたさういふとあつた
 けさつゝいふとあつたさういふとあつた
 さういふとあつたさういふとあつた
 あつたさういふとあつたさういふとあつた
 孫で、いふとあつたさういふとあつた
 きこしつゝいふとあつたさういふとあつた

あつたさういふとあつたさういふとあつた
 ちつゝいふとあつたさういふとあつた
 けさつゝいふとあつたさういふとあつた
 さういふとあつたさういふとあつた
 あつたさういふとあつたさういふとあつた
 孫で、いふとあつたさういふとあつた
 きこしつゝいふとあつたさういふとあつた
 せとつゝいふとあつたさういふとあつた
 きこしつゝいふとあつたさういふとあつた
 孫で、いふとあつたさういふとあつた
 きこしつゝいふとあつたさういふとあつた

